

第87回「萩句会報告」 (順不同)

日時 2016年9月12日 (月) 14時～17時

兼題「青芒」

川井素山 ○窓拭きのゴンドラ高し秋澄みぬ  
渡し舟舫ふ岸边や青芒  
赤べこの草食む背に赤蜻蛉  
デパ地下に秋刀魚入荷の洞間声

保井寶正 ○青芒葉ずれの歌の夕まぐれ  
雨上り慟哭のよな蝉時雨  
外人の浴衣着こなす親子連  
初恋の銀座の夜のメロンかな

後藤克彦 ○<sup>おにやんま</sup>鬼蜻蜒 神風のごと迫り来る  
雨上り蚊の群団や露地の空  
腹見せる猫の上から団扇風  
点点と穂出す日待つや青芒

佐久間喬 ○夏草や駆け入るボール封じ込む  
青すすき胸の高さに波立ぬ  
雨上がり風新しき今朝の秋  
思い切り蹴りしボールや雲の峰

丸山酔宵子 ○松茸のせめて香を無言館  
<sup>ない</sup>地震 が来て微かに揺れる新豆腐  
晩夏の陽浴びて野天の岩に座し  
塩を振りぬくもり指に<sup>きぬかつぎ</sup>衣被

菊地崇之 ○仲秋や母を偲びつ団子食む  
仙石野滴纏いし青芒  
柿の実や朝一番に鳥突々く  
囲碁終り露地の色草微笑さそう

吉田啓悟 ○すぎし絵へあゆみをもどす愁思かな  
ひぐらしの啼きあつて空残しけり  
あくまでも青き空あり野分あと  
夜遅く帰りて青芒ひとつ

青木英林 ○朝顔の一期一会や明日も又  
芒野を吹き抜く風の音清か  
車窓から一面の原青芒  
枝豆の青きに惹かれもう一杯

牧野里山 ○観覧車夕焼けの中に富士望む  
陸奥の稲穂の波に笑顔あり  
夏の日夜更し早起き五輪かな  
島影と夕日に映える青ススキ

佐久間たか子 ○年寄りが児らに勝るる秋祭  
我に触れ行きつ戻りつ群蜻蛉  
海風に光弾いて青芒  
夕暮に輪唱競うや鈴虫や

山本草風 ○風運ぶ祭囃子の哀しさや  
ダルタニアン鋭く振う青ススキ  
手をつなぎ花火見物朝にまで  
整然と頭差しだす稲穂かな

金森純女 ○被災地の西瓜食む夜や音もなく  
焼き栗のぬくき香りや人来る  
青すすき一夜のうちに刈りとられ  
梨を剥く手元見つめる臥せし父

佐伯兵庫 ○青芒挫折乗り切る母子の道  
御岳に寝てレンゲショーマを撮る夕べ  
絵手紙の干柿みやげ孫を待つ  
帰省子やケーブルカーにテロ表示

渡辺鯨波 ○老猫の軽さ愛しむ終戦日  
ロボットにやさしくされる敬老日  
青芒ユニクロでゆく老夫婦  
青芒遊ぶ子供とテロの報

次回「萩句会」

日時 日時 2016年10月10日(月)14時～17時

場所 下目黒住区センター第2会議室

兼題 『みのむし』『蓑虫』一句 当季雑詠三句 計四句